
ウチのサンタクロース

桜木千尋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウチのサンタクロース

【Nコード】

N2741D

【作者名】

桜木千尋

【あらすじ】

恋愛経験ナシの23歳の湊はXmasに会社で仕事をしながら一人カッパめんをすすっていた。そんな時インターホンが鳴り響いて………？

(前書き)

感想お聞かせ下さいね！
宜しく願います！

街にはXmasの曲が流れてライトアップされている中、仕事をしている人。

それがウチ櫻井湊23歳。

恋人も家族もないウチは仕事が命や。

興味の無いことに話を合わせる気はナイしな。

今日も仕事に向かってたんや…全員仕事仲間は恋人とおデート。残り物には福はないんや。

「阿呆！仕事をしてから行けやっちゅうねん！」

自分の声が部屋に響き渡った。

淋しい気もするしなんか笑えてきたりする。Xmasって毎回こつや。

祝ったことねえって。

てか…終わらへん。

仕事多すぎやねん！！！！

減らせや！！

グウ~~~~~

とお腹が鳴った。

時計を見ると既に12時になりかけていた。

夕飯を食べるのを忘れてたウチは会社にあるカップめんを食べようと考えた……………。

あることがおかしいんや。

「三分待つのめんどいなあ〜」

ほんま孤独やわ。

だーれの声もしへんし、腹なるわ。サンタクロースにでも来て欲しいちゆうねん。

……………あ？

雪やないか。ひっさしぶりに見たなあ。

三分たったなあ？ええわ。もう食うか。

ズルズルズルズル

ラーメンのすする音までもが部屋に響く。

豚骨やなラーメンは。

Xmasにラーメンってどないやねんな。

まあ…もうええわ。

諦めや諦め。

ピンポーン

会社に付いとるインターホンが鳴った。

なんやなんや。

新聞ならいらんよ。

ピンポーンピンポーン

うるさいっちゆうねん！

何回鳴らすんや！苛々されるなボケ！

しゃあない…出てやるかな。新聞やったら追い出してやり。

期待半分苛々半分でドアを開けてみた。

そこに立ってたのはサンタクロースのカッコした男。

誰や。これ。

サンタクロース来るわけあらへんし。

「Merry Christmas!」

「……………誰や」

「サンタクロースだよ」

「……………帰れ」

ウチはドアを閉めた。

インターホンを連打し始めた迷惑サンタにイラついたウチは再び開けた。

「なんやねん！邪魔か！陰謀か！」

「サンタクロースだってば……」

「プレゼントないやんか阿呆」

「あるよ！ある！」

「どこや？」

見渡してもないやんか。

白い袋もあらへんしカツコはまあええとして。

なんやねんコイツ。

睨み付けるとコイツはウチを見て爆笑し始めた。

ムカつくやつぢやな！！

「閉めるで」

「分かったってば！！ねえ湊サン僕ですよ！！」

「誰やねん」

「分かってないなあ……僕ですよ黒井です！黒井達彦！」

その名前は知つとる。

有名人やし。

いや会社の中でやで。で、そんな奴がウチになんの用がっているん？

よ 分からんわ。

「で、なんの用や」

「実はですね…」

「あ そや。500文字以内で話してくれ。めんどいからな」
「……………」

「ラーメン伸びるからはよ話してくれや」

豚骨ラーメンをすすりながら耳だけを傾けた。

その…何やった？黒井？ちゅうやつはウチをじっと見つめてた。キモチワルイやつぢやな。

「夕飯まだか？」

「ええ…まあ」

「カップめんあるさかい…勝手に食べや」

「その前に話がつつ」

「話？はよう話してくれゆうーとるがな」

いじいじしとるな…。

話ってなんやねん。Xmasに話す事なんか？

「実は湊さんが好きなんです」

「は？」

「だから好きなんです！！湊サンがつつ」

な なんか顔真っ赤にしてウチに言ってる。

好きなんです？は？

これは…普通に考えれば告白っちゅうやつ？

ええええ?!

「ちょ…ちょいまち!」

「はい!」

「その…あなたはウチが好きやってことか?」

「はい!」

なんやこの空気!入れ替えせなあかん!

もうあつつくて顔ウチまで赤くなるやんか。

……… ちゃうねん。

この赤いのは気温のせえじゃあらへん。

……… コイツのせいや。

阿呆……。

「返事欲しいか?」

「今すぐ!」

「そやな…目え瞑とつたら答えてやってもええよ」

「本当ですか?!」

「ほんまや。はよ目え瞑れや」

黒井は目を瞑った。

なんちゆうか…純粹すぎんねんコイツは。

恋愛なれとらんウチにとつたらよう分からん。

答えは出とる。

しっかし綺麗な男やな。

男のくせに睫長いし…。

しやあないな。

ウチは黒井のほっぺたにかるくチュウをした。

「これがウチの答えや。分かったかあ？」

「……………」

「なんや」

「唇にして欲しかったです…」

「な…恋愛なれとらんウチにそこまでさすな！」

「じゃあ僕からもXmasプレゼントあげますね！」

と言って黒井はウチの顔に近付いてきた。

なんやっ……………？

一瞬やったが…黒井の唇がウチの唇に重なった。

……………。

「Merry Christmas！」

「キス！」

真っ赤なウチを黒井は

「わはははっ」と笑っていた。

なんちゆうことを…。

阿呆！変態！

…好きかもしれん。

コイツの事ウチ好きや。

きつとこれが…”恋”なんや……………。

ウチらは時計の針が12時を指した時再び唇を重ねあった。

変なXmasやったが…ほんまに幸せや。

ウチのサンタクロースさん。

いつまでも側にいろや…！！

E
N
D
*
*
*
*
*
*
*

(後書き)

*ウチのサンタクロース*を読んで下さってありがとうございます！

実は短編小説でしたがもっとこの二人の恋愛を書いてみたいなあと思いました！

いつか書けたらいいです！その時も読んで下さいね！

では最後にもう一つの小説”キミに幸あれ！”も読んでいただければ幸いです！

ありがとうございました！！

桜木千尋

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2741d/>

ウチのサンタクロース

2010年11月2日02時24分発行